

# 第1学年 国語科学習指導案

男子18名 女子8名 計26名

指導者 松原 千佳

## 1 単元名 むかしばなしのせかいを たのしもう

## 2 単元について

### (1) 教材について

本単元は、子どもたちが昔話や神話・伝承などの本や文章を通して、伝統的な言語文化に触れる楽しさを実感することをねらいとしている。日常耳にする言語とは違った言い回しの多い昔話に触れることは、子どもたちにとって新鮮な出会いであり、これから伝統的な言語文化を学習していくうえで大切な入口となるであろう。

ここでは、読み聞かせ教材である「まのいいりょうし」を用いて、くわしく内容や場面の様子を読み取る学習を行う。「まのいいりょうし」は、主人公が、鉄砲を一発撃っただけなのに、かもやいのしし、山芋などのたくさんの獲物を次々と手に入れて、最後には持ちきれないはずのない大量の獲物を家に持ち帰るとい話である。主人公が行動するたびに思いもかけない方法で大量の獲物を手に入れることができ、それが何度も繰り返されるスケールの大きなほら話に、子どもたちは引きつけられ興味・関心をもつであろう。また、この話は昔話独特の語り口調や言い回しで書かれており、登場人物のせりふも方言で書かれている。昔話の定番である「むかし、あるところに」といった表現で始まり、「いちご、さけた」（めでたし、めでたしの意味）と幸福感で満たされる終わり方をしている。子どもたちには昔話の内容のおもしろさだけでなく、独特の語り口調や言い回しにも親しみをもたせたい。

また、たくさんの昔話に触れることは、昔話の様々なおもしろさに気付くことができ、豊かな読書体験にもつながると考える。「ももたろう」「花咲じいさん」など、どの子どもも知っている昔話だけでなく、より多くの昔話に触れさせるため、教科書で紹介されている昔話を含む絵本を子どもたちに提示する。一度は読んでもらいたい日本の昔話に出会わせ、たくさんの昔話に親しませることで、子どもたちに伝統的な言語文化である昔話の楽しさを体験させたい。

### (2) 児童の実態

本学級の子どもたちは、進んで図書室に行き本を借り、休み時間にも熱心に読んでいる。また、朝の活動「音読タイム」や授業で読み聞かせを行うとたいへん喜び、物語の世界に浸りきって楽しんでいる。また、1学期に「おむすび ころりん」を学習した後、少し話の内容に異なる部分がある「おむすび ころりん」の本を読んだところ違う内容だったことに驚き、このことをきっかけに、昔話を進んで読むようになった子どももいた。読み聞かせにより昔話を知っている児童は多いが、自分で昔話を読んだ経験は意外と少ない。「おむすび ころりん」も昔話ではあるが口語体で書かれており、子どもたちが昔話の独特の語り口調や言い回しなどに触れるのは、本単元が初めての経験となる。

これまでの学習では、大きな声ではっきりと音読すること、想像を広げながら登場人物になりきって音読することを目当てにしてきた。「はなのみち」では、登場人物の気持ちを想像し、自分で考えたせりふを付け足しながら音読した。また、「おむすび ころりん」では、登場人物の気

持ちの変化に焦点をあて、気持ちを想像しながら音読したところ、聞いている人により伝わりやすいように動作や表情を工夫する子どもの姿も見られた。「おおきな かぶ」「ゆうだち」では、物語の内容と自分の経験とを結び付けて考えることで、登場人物の気持ちを考えて音読に生かすことを目指してきた。これらの学習を通して、子どもたちは、登場人物の気持ちを想像しながら、動作や表情を加えることはできるようになってきたが、その気持ちを音読で表現することは難しかった。

本単元では、場面の様子を豊かに想像しながら昔話の独特の語り口調や言い回しで書かれた昔話を読むことで、伝統的な言語文化に触れる楽しさを実感させたいと考える。

### (3) 指導の構え

この単元は、子どもたちが伝統的な言語文化としての古典と出会い、親しんでいく始まりとなる教材である。昔話の読み聞かせを聞いたり、昔話の世界を想像しながら語ったり、お気に入りの本の好きな場面を幼稚園の友達に語ったりする活動を通して、昔話のおもしろさや楽しさを実感させたい。特に、導入の昔話との出会いでは、読み聞かせをして内容のおもしろさだけでなく、昔話の独特の語り口調や言い回しに親しみ、昔話の世界に浸らせるようにしたい。

「まのいいりょうし」では、昔話の独特の語り口調や言い回しを楽しみながら、場面の様子の想像を広げることを中心に学習を進めていく。そして、実際に自分で声に出して読んでみたり、演じてみたりすることで、昔話を楽しく語るようにしていきたい。

また、単元を通して様々な昔話に触れることは、それぞれの昔話の共通点や違いなどに気付き、昔話独特の内容のおもしろさを感じるきっかけとなるであろう。また、たくさんの物語を読むことで、子どもたちにとって読書が身近なものになり、自ら本に関わり、物語の世界を楽しもうとする態度が育っていくことを期待している。

## 3 単元の目標

- ・好きな昔話の本を選んで、楽しみながら読むことができる。 (国語への関心・意欲・態度)
- ・場面の様子を想像しながら、独特の語り口調や言い回しを意識して読むことができる。  
(読むこと)
- ・昔話や伝承などの本や文章を読んだり、読み聞かせを聞いたりして、昔話の発表をすることができる。  
(言語についての知識・理解・技能)

## 4 単元の評価規準

国語への関心・ 意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔話の読み聞かせを聞いて、音読の楽しさに気付いたり、簡単な劇などで、表現しようとしていたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせを聞いて、登場人物の行動について想像を広げている。</li> <li>・好きな場面について、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて読んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔話の読み聞かせを聞いたり、好きな場面を紹介したりしている。</li> <li>・昔話の話のおもしろさや独特の語り口調、言い回しに気付き親しんでいる。</li> </ul>

## 5 研究仮説との関連

＜仮説1＞ 子どもたちが見通しをもって取り組めるよう単元の構想を工夫することにより、主体的に追究を進めていくことができる。

### ○昔話のおもしろさを感じ学習意欲を高める導入

単元の導入で、「まのいいりょうし」の読み聞かせをする。読み聞かせは、文字などに対する抵抗なく作品の世界に浸り、語りに引き込まれて、じっくり聞いて味わうことができる。特に導入時に、語りの上質なゲストティーチャーの方に読んでいただくことで、子どもたちは、昔話独特の語りや雰囲気より味わい、物語の世界に浸ることができるであろう。また、内容のおもしろさを味わうだけでなく、昔話の独特の言い回しや語りの楽しさも感じてほしいと願っている。そして、自分たちも昔話を読み、身近な人に昔話を語ってみたいという意欲につなげたい。

### ○単元を貫く言語活動「むかしむかしのおはなしかい」の設定

本単元では、単元を貫く言語活動として、幼稚園の友達にお気に入りの昔話を紹介する「むかしむかしのおはなしかい」を設定する。これまでの学習を振り返りながら、次は幼稚園の友達を招待して「むかしむかしのおはなしかい」をすることを子どもたちに提示する。どのお話にしようかといろいろ探す過程で、子どもたちはたくさんの昔話に触れることができるであろう。また、1学期に交流のあった幼稚園の友達におもしろく楽しい昔話を伝えたいという相手意識と目的意識をもたせて取り組ませたい。

「まのいいりょうし」を学習した後、子どもたちに提示した絵本の中からお気に入りの昔話を決め、グループをつくる。グループごとにお気に入りの昔話の好きな場面を発表し合う。そして、役割を決めて読んだり簡単な劇を演じたりする中で、語る楽しさを感じ、主体的に語ろうとする姿を期待したい。また、お気に入りの昔話を選ぶ時には、子どもによって内容のおもしろさに注目する子どももいれば、独特の語りのおもしろさに惹かれて昔話を選ぶ子どももいるだろう。様々な視点から選ばれたお気に入りの昔話を紹介し合うことで、新たな昔話のおもしろさを発見し、“もっと昔話を読んでみたい”という読書活動への意欲をもたせたい。

### ○たくさんの昔話に触れるための読書活動や読み聞かせ

朝活動などに昔話の絵本を読む活動を取り入れ、「むかしむかしのおはなしかい」を意識しながら、たくさんの昔話に触れさせる。そのことにより、昔話を自分でじっくり読もうとする姿にもつながることが期待できる。子どもたちには、「むかしむかしのおはなしかい」を意識しながら読書活動を進めることができるように、提示した本の一覧表をのせたワークシートを配布する。子どもたちは、昔話を読んだ後、どのくらいおもしろかったかをワークシートに3段階で印をつけていき、お気に入りの昔話を選ぶ時の材料にする。また、たくさん読み進めている子や、一つの本をじっくりと読み深めている子の思いを朝の会などで紹介し、読みたい気持ちを高めるような声かけを行っていきたい。

さらに、昔話をいくつか選んで担任が読み聞かせを行い、子どもたちの読書活動への意欲を高め、語りの楽しさをより実感させるようにしたい。読み聞かせを行うことで、文字に抵抗を感じている子どもも、物語のおもしろさを感じることができるであろう。

＜仮説2＞ 互いの読みや考えが関わり合う場を工夫することによって、子どもは考えを深めることができる。

### ○楽しく語るための学習過程の工夫

第1次では、「まのいいりょうし」の読み聞かせを聞き、おもしろかったところや好きな場面を発表し合う。第2場面は、様々な出来事が次々と起こる。子どもたちは、「ガワガワ」「～だの～だの」「入ったも、入ったも」などの言葉から、繰り返しや語調のおもしろさを感じることができるであろう。そこで、おもしろいところやおもしろい言葉に注目したり、登場人物の様子を動作化したりすることで、場面の様子について想像を膨らませ、楽しく読むようにさせたい。子どもたちは、話合いを重ねることで、自分では気付かなかった場面の様子やおもしろさに気付いたり、想像をより広げたりしていくであろう。第2次での「むかしむかしのおはなしかい」では、「まのいいりょうし」の学習をもとに、昔話の独特の語りや内容のおもしろさに注目して、様々な視点からお気に入りの昔話を選ぶようにさせる。何回も口に出して読んでいくうちに、その物語の世界にひたり、より語る楽しさを感じていくであろう。そのためにも、じっくり練習の時間をとってやりたい。

### ○昔話の世界にひたるための学習形態の工夫

「まのいいりょうし」の学習では、内容を読み取った後に自分の語りを発表し、感想を伝え合って、子どもたち一人一人が語ることを楽しむようにしたい。何度も声に出したり、友達の読みを聞いたりする中で、子どもたちが、ゆっくりと丁寧に読んだり、場面の様子を想像し楽しく読んでいくことを目指す。

また、「むかしむかしのおはなしかい」へ向けてのグループ活動では、「まのいいりょうし」での学習を生かして、グループで発表の仕方を工夫したり、アドバイスし合ったりして、グループで関わり合いながら工夫していくようにしたい。

＜仮説3＞ 学んだことを振り返り、考えや感じ方を全体で共有することで、学んだことを次の学習に生かしていこうという意欲をもつことができる。

### ○1時間の学習を振り返る場の設定

授業の振り返りでは、話合い活動を終えて語ってみたいところを授業前とは違う色でワークシートに書き加え、友達の読みや考えを参考にして自分の読みや考えを見直す。

その後、場面の中で一番語ってみたいと思ったところを選び、掲示した本文に名札を貼ることにより、一人一人の振り返りを全体で共有する。みんなが語ってみたいと思うところがよりはっきりするため、自分では気付かなかった場面のおもしろさや楽しさに気付くきっかけにもなる。そして、最後には、場面の様子を想像しながら自分が語ってみたいところを実際に声に出して語る。授業の最後に語る活動を取り入れることで、より楽しく昔話を読むことができたという満足感を味わわせたい。また、「むかしむかしのおはなしかい」を目指して、子どもたちの上手に語りたいたいという意欲につなげたい。

6 全体計画（6時間 本時3／6時）

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価の観点			評価規準
				関	読	言	
第1次	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>知っている昔話を発表し合い、これからの学習の見通しをもつ。</li> <li>ゲストティーチャーを招き、「まのいいりょうし」の読み聞かせを聞く。</li> <li>「まのいいりょうし」を聞いて、おもしろかったところや好きな場面を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書 p 33～34 の絵を掲示し、日本の昔話と外国の昔話がたくさんあることを確認する。</li> <li>これまでの学習の言語活動を振り返りながら、次は、幼稚園の友達に聞かせることを提示することで、単元を貫く言語活動を意識させる。</li> <li>「むかしむかしの絵本シリーズ」の12冊を子どもたちに提示し、その中からお気に入りの昔話を選んで、「むかしむかしのおはなしかい」で紹介することとする。</li> <li>提示した本の一覧表をのせたワークシートに、昔話を読んだ後、どのくらいおもしろかったか印をつけていき、お気に入りの昔話を選ぶ時の材料とする。</li> <li>ゲストティーチャーの方に、昔話の特徴についても話していただく。昔話は、語り伝えられてきたお話であることをおさえ、語ることは、聞き手に聞かせることが大切であることを確認する。</li> <li>「まのいいりょうし」の読み聞かせを聞いて、内容のおもしろさだけでなく、昔話独特の言い回しや方言のおもしろさにも気付かせる。</li> <li>昔話は、語り伝えられてきたお話であることから、相手に伝えるように読むことを目当てとする。そのため「昔話を語ろう」という言葉で子どもたちに働きかけ、学習を進めていく。</li> <li>おもしろいところや分からない言葉を話し合いながら、場面の様子の想像を広げる。</li> <li>昔話独特の言い回しや方言を繰り返し語り、言い回しに浸らせることで、語る楽しさを感じさせる。</li> </ul>	○			<p>[関] 昔話の語り口や登場人物の行動を楽しんで聞こうとしている。</p> <p>[言] 読み聞かせを聞き、昔話の話のおもしろさや独特の語り口調、言い回しに気付きながら、好きな場面を発表している。</p>
	2	<p>昔話を楽しく語ろう。</p> <p><b>「まのいいりょうし」の第2場面の前半 (P127 L1～L7)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鉄砲1発で、15羽ものカモをしとめた場面の様子を読み取る。</li> <li>「そこで～ガワガワ入っていった」(P127L4～L6)を中心に、登場人物の行動を想像する。</li> <li>情景を想像しながら語る。</li> </ul>	<p>お気に入りの昔話を語ろう</p>	○		○	<p>[関] 場面の様子や人物の行動について想像しながら、音読しようとしている。</p> <p>[読] 場面の様子や人物の行動について想像を広げている。</p>
	3 (本時)	<p><b>「まのいいりょうし」の第2場面の後半 (P127 L8～P128 L6)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>沼からあがると、はかまの中にたくさんの獲物が入っていた場面の様子を読み取る。</li> <li>「ほしたら～うようよしていた」(P127 L11～L14)を中心に、登場人物の行動を想像する。</li> <li>昔話の展開のおもしろさを感じながら語る。</li> </ul>		○		○	<p>[関] 場面の様子や人物の行動について想像しながら、音読しようとしている。</p> <p>[読] 場面の様子や人物の行動について想像を広げている。</p>
第2次	4	<p>「むかしむかしのおはなしかい」をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>お気に入りの昔話を選び、選んだ理由を発表し合い、グループをつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれが選んだ昔話のおもしろかったところを発表し合うことで、昔話の共通点や違いなどにも気付き、昔話のおもしろさを感じさせる。</li> <li>一人で読むところと、全員で読むところをつくるなど、役割分担でも表現の工夫ができることを確認する。</li> <li>「むかしむかしのおはなしかい」では、グループでお気に入りの昔話の好きな場面を語って発表し合う。</li> <li>幼稚園の友達を招待するという相手意識</li> </ul>	○		○	<p>[関] お気に入りの昔話を探して読むことに進んで取り組もうとしている。</p> <p>[読] 自分の経験（読書や実体験）と結び付けて、簡単に感想を述べている。</p>
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとに計画を立てて練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「むかしむかしのおはなしかい」では、グループでお気に入りの昔話の好きな場面を語って発表し合う。</li> </ul>			○	<p>[言] 読んだ昔話の好きなところを練習している。</p>
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>「むかしむかしのおはなしかい」に幼稚園の友達を招待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園の友達を招待するように、働きかける。</li> </ul>			○	<p>[言] 読んだ昔話の好きなところを紹介している。</p>

7 本時の学習 (3 / 6 時)

(1) ねらい

- ・昔話の言い回しや展開のおもしろさを感じながら、想像を広げて楽しく読むことができる。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点 (◆評価)
<p>1 第2場面の後半 (P127L8~ P128L6) の本文を音読する。(5分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">「まのいいりょうし」のおもしろいところを見つけて語ろう</div> <p>2 本時の学習課題について話し合う。(25分)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 30%;"> <p>百一つあんは、とろうと思っていたのに、たくさんの獲物がとれたところがおもしろい。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 30%;"> <p>おもしろい言い方を見つけたよ。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 20%;"> <p><u>「もぞもぞとくすぐったいんで・・・はかまの中をのぞいてみた。」</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・百一つあんが、もぞもぞとくすぐったがっているのがおもしろい。</li> <li>・はかまの中で、うようよ動いていくすぐったいんだ。</li> <li>・どじょうが、足につくとぬるぬるしてそう。</li> <li>・百一つあん、重たくて歩きにくかったよ。</li> <li>・はかまの中を見た時は、びっくりしたよ。</li> <li>・はかまの中をのぞいた時の百一つあんの「なんだべ。」もおもしろいな。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 20%;"> <p><u>「えびっこだのどじょうだの、ざこだの」</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・えびもどじょうも、こんなに簡単に獲れたところがすごい。</li> <li>・こんなことがあるなんて信じられない。</li> <li>・百一つあん、運よすぎだな。</li> <li>・「～だの、～だの」っていう言葉もおもしろいよ。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 20%;"> <p><u>「入ったも入ったも、ざっとまあ五しようばかり」</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「入ったも入ったも」って、とてもたくさん獲れたんだろうね。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 20%;"> <p><u>「早く帰って、かかさ見せっぺ。」</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「かかさ」って初めて聞いた。</li> <li>・「見せっぺ」っていう言葉もおもしろい。</li> </ul> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「五しよう」ってどのくらいなのかな。</li> <li>・バケツ何杯分かな。</li> <li>・こんなに、はかまの中からたくさん出てくるなんてすごいな。</li> </ul> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 30%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ざこ」って、何だろう。</li> <li>・小魚も獲れたなんてすごい。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 30%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・えびもどじょうもざこも獲れて、百一つあん、わくわくしたんじゃない。</li> </ul> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 30%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんどん出てきて、百一つあんも、びっくりしただろうな。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 30%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こんなにたくさん獲れてとても嬉しかっただろうな。</li> </ul> </div> </div> <p>3 本時の学習を振り返る。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はかまからたくさん出てきたのを想像したら、びっくりした。</li> <li>・はかまに入るはずのないのに、あんなにたくさん入っていることがわかって楽しかった。</li> <li>・百一つあんが、もぞもぞとくすぐったがっているのを想像しながら読んだら、楽しくなってきた。</li> <li>・「こりゃあ、たいしたえものだ。」を嬉しそうに読んでみたら、わくわくしてきた。</li> </ul> <p>4 語ってみたいところを音読する。(5分)</p>	<p>◆「まのいいりょうし」の本文をのせたワークシートを用意して、おもしろいと思ったところに印をつけてから話合いに入る。そして、語ってみたいと思ったおもしろいところについて話し合うことで学習課題である語りへとつなげていく。</p> <p>◆話合いでは、叙述に基づいて短い言葉から想像を広げて読むことができるようにする。</p> <p>◆「ざこ」や「五しよう」など分からない言葉を確認する。</p> <p>◆はかまや五しよう分の具体物を実際に用意し、子どもたちが場面の情景について想像を膨らませられるようにする。</p> <p>◆「やっこさ むこうぎしに はい上がった」や「もぞもぞとくすぐったい」などの百一つあんの様子を動作化することで、より場面の様子を想像できるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆場面の様子や人物の行動について想像を広げている。 【ワークシート・発言】</p> </div> <p>◆楽しそうな表情で読んでいる子や、場面の様子を想像しながら楽しんで読んでいる子を紹介したりして、全体で様々な読み方を味わう。</p> <p>◆場面の様子や登場人物の行動を中心に想像を広げながら、声に出して読む中で、昔話を読む楽しさを感じさせる。</p> <p>◆百一つあんの予想外に獲れた驚きや喜びにも気付かせる。</p> <p>◆場面の中で、語ってみたいところに、ワークシートに違う色で印をつけ加える。その後、掲示した本文にも1番語ってみたい文に、各自の名札を貼り、本時の感想を発表し合う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆場面の様子や人物の行動について想像しながら、音読しようとしている。 【語り】</p> </div>

(3) 授業観察の視点

昔話の言い回しや展開のおもしろさを感じるための叙述への書き込みや発言の取り上げ方などは効果的であったか。